



るうてる

箱崎群教会共同体版

一月報 メッセージと
証し

発行 日本福音ルーテル箱崎教会

代表者 牧師 和田 憲明

〒812-0053 福岡市東区箱崎 3-32-3

TEL (092) 641-5440

【箱崎教会・恵泉幼稚園】



【聖ペテロ教会】



【奈多愛育園・るうてる愛育園】(保育園)

「はっきり言うておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」(マタイによる福音書 10章42節/新約聖書 19ページ)

冷たい水一杯、小さな者に

＜祖母が聞かせてくれた教会の物語に＞



『レ・ミゼラブル』(日本語タイトル『あゝ、無情』)は、姉の子どもたちのために一つのパンを盗んだことで、19年間も服役することとなった主人公ジャン・バルジャンを描く作品です。1815年10月、彼が教会を訪れた時、神父に暖

かく迎え入れられましたが、その晩彼は教会の銀食器を盗んで逃げ出します。翌朝、彼を捕らえた憲兵に対して神父は「食器は私が与えたものだ」と答え、残りの2本の燭台も彼に差し出したのです。この出来事に心打たれた彼は、熱い涙と共に心を入れ替え後の人生をやり直すのです。この物語を私は幼い頃、祖母の語りで聞かされたのですが、「じゃんぼる、じゃん」はこの国の人か? 「銀の燭台」の「しょくだい」とは? なぜ「銀の燭台までもあげたのか?」おまけに物語のタイトルが「あゝ、無情」の「むじょー」とはどういう意味? と聞き返したことを覚えています。

昨日も夜半未明から降り続いた大雨の後に来客があり、冷たいお茶を差し出すことになりましたが、今朝与えられたマタイ福音書 10章でイエスさまが言われた「わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は…」に通じるのではないか。幼い私が初めて知ることになった教会の物語となにか重なるように感じたのです。

＜先々週からつづく、マタイ福音書は＞

今日与えられたマタイ福音書は、イエスさまが弟子たちを派遣する場面です。聖書箇所は数週間前から今日まで続きの箇所が選ばれています。イエスさまはご自身の代わりに神さまの御言葉を託すべく12人の弟子を選ばれました。そこでイエスさまは弟子たちに指示します。「イスラエルの失われた羊のところへ行きなさい」(マタイ 10:6)と、まず身近な人々から神さまの言葉を伝える。弟子となったあなたがたも「(神さまの恵みを)ただ受けたのだから、ただで与えなさい」(同書 10:8)という。その時は迫害があるかも知れないが「恐れるな」(同書 10:26、28、31)と三度も語るのです。

そして今日弟子たちが御言葉を伝えに出ていくところで、「あなた方を受け入れる人は、わたし(イエスさま)を受け入れ、イエスさまを受け入れる人は、イエスさまを使わされた方(天の神さま)を受け入れるのである」と言われます。このように聞くと私たちは、弟子たちを受け入れない人は良くない、イエスさまや神さまをも拒む、と思うのではないのでしょうか。自分こそは神の言葉を受け入れる人で他の人は間違っている、と人を裁きまた優越感が少なからず湧き上がる。実際、弟子たちもある時神の言葉を受け入れなかった人々に対して「彼らを焼き滅ぼしましょうか」(ルカ 9:54)と怒りをあらわにした時、イエスさまから戒められました。弟子たちの人間的な弱さは私たちにも見受けられます。大事なことは、まず私たち自身が、神さまに受け入れられた時のことを思い出すことです。神はなんの利益を得ることなくこの私を教会や園に招き、一片の御言葉を差し出し、捉えてくださったのではないのでしょうか。

使徒パウロも「わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対する愛を示されました」（ロマ 5：8）と言っています。この私をも召し出してくださった神の恵みを思い起こすことから始めるのです。ここで私は「この小さな者の一人に冷たい水一杯」を差し出す相手はかつての自分で、「小さな者」だった自分に誰かが与えてくださった福音を思い起こすのです。みなさんも教会や園へお誘いくださった方をすぐにでも思い浮かべることが出来るでしょう。

<「小さな者」になった>



さらに大事なことは、「小さな者」とは神さまご自身のことだと思ふのです。

突飛な発想ではありません。イエスさまは同じマタイ福音書 25 章で「はっきりしておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」

（同書 25：40）といわれます。この箇所は、神さまが世界の終わりにもう一度来られ、羊飼いが羊と山羊を右と左に分けるいわゆる「最後の審判」です。

神は「祝福された人たち」と呼びかけ、天地創造の時から用意されている国を受け継ぎなさい。なぜならあなたがたは「わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていた時に飲ませ、旅をしていた時に宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ」といわれる。すると「正しい人たちは、「いつ、わたしがしましたか」とあまりよく覚えていないように答えます。そこで神は「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」と、なんと、神が小さな者として受け手となっていたと知らせるのです。

私たちが人生で出会った弱く小さくされていた人々に神さまを見る。神が飢え、渇き、泊まる場所もなく裸同然で病をかかえ、狭い牢屋に閉じ込められるように悲しみ伏している時、あなたが助けてくれたというのです。冒頭の「レ・ミゼラブル」の神父も、ジャン・バルジャンに小さな神を見たのでしょうか。そして今度は彼が、出会う人に愛を与える者に変えられたのです。今日の福音書になぞらえれば「冷たい水一杯」をくださったのはあなただ、という。神が、私たちの生涯の最期に、その報いをあなたが受ける番だ、と祝福をくださる約束です。

<弟子だという理由ひとつで>

私たちは今日の物語をとおして、助けを必要としていた小さな自分自身を重ねます。さらに、出会う一人ひとりに小さくなって受け取ってくださる神ご自身を重ね合わせるのです。見落としがちな小さな者にこそ目を向け、「冷たい水一杯でも」差し出す。理由は多くありません。私たちが、イエスさまの「弟子だという理由」ひとつだけなのです。

* 7月2日（日）聖霊降臨後第5主日聖餐礼拝
崎教会（聖ペテロ教会と合同礼拝）説教要旨

【おしらせ】

○ 毎週の礼拝は、いつでも（一度だけでも）、どなたでも（信徒でなくとも）自由にご参加できます

○ 子どもたちには、教会学校のように「こどもへのおはなし」があり「祝福」をいたします

○ 礼拝堂の見える隣の部屋を自由にご使用できます（エアコン・音響完備）

○ 毎月「第1火曜日 10時30分～」もはじめました 夏休みも平日もおまちしています

○ 「日本聖書協会 リサイクル募金」（別紙カラーのちらし）にご協力ください

○ 「平和セミナー2023」（九州教区開催）のYouTubeをご覧いただき、祈りを合わせましょう 「平和を実現する人々は、幸いである」（マタイ 5：9）

○ ご不明な点は、牧師まで気軽におたずねください



@JELC_HAKOZAKI



「証し」(神さまからの自身への働きかけ)の2つの文章を寄稿いただきました感謝しつつ おかちいたします (わ)

帰る場所は安心の土台

A・K (奈多愛育園職員)

私は奈多愛育園に保育士として入職し二十数年経ちました。先日キリスト教保育連盟九州部会の保育者研修に参加させていただきました。

研修の事前質問として「キリスト教保育とは具体的に何をしたらよいのか、若手保育士にどう伝えて言ったらよいのか」を提出し参加しました。

開会礼拝から始まり、講演の「神の愛を伝えるキリスト教保育 Q&A」では、キリストの愛は無差別の愛、祝福は共にいるということ、祈りはリマインダー—日一日委ねていけばそこに喜びがあることを学びました。しかし、「経験とは失敗の数、失敗とは人を傷つけた事である。」とあり、そのことから振り返れば私にも思い当たる事が多々あり…つらくもなりますが、その経験を無駄にせず生かしていきたいと思いました。

グループ討議のテーマは、<「いのり」さえなければ…と「聖書」さえなければ…何のメリットがあるか>でした。協議する中でメリットは事前準備(ピアノや聖話・言葉の理解等)の負担減や礼拝がないので子どもが遊びに集中出来る・歌や絵本等の内容が広がる等意見が出ました。「えっ?キリスト教保育を学びにきているのに?!このテーマはどうなるのか…」と思い参加していました。講師の先生が「大学の頃、レポートを作成していて調子がでてくる10:30から礼拝があるのでさぼっていた。その時、教授から「手を止めて礼拝にできることは不合理だけど意味がある。人生は中断する。あれしたい、これしなければの途中で人生は終わる。その事と同じ。」と言われたそうです。私は毎日が人生の縮図のように感じ、中断されることの経験も意味があるのかと、礼拝を毎日することに納得できました。ヨハネによる福音書第13章7節「私のしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」の解説で、今は分からない(神様からの宿

題)けれど後で(聖霊が来たら)分かる。「わかる」を一文字動かすと「かわる」、分かるということは変わる事、変わる為に時間や準備が必要とありました。すぐに答えが欲しかった私ですが、私の質問の答えはキリスト教保育って…と考えながら子どもたち一人一人を大切に保育し愛育園のみなさんと関わる中でみつかることかも知れません。

「帰る場所を知っている人は“冒険” 知らない人は“漂流” 帰る場所とは安心の土台」だそうです。私を帰る場所・安心の土台として、子どもが冒険できるような母であり保育士でいられるよう努力していきたいと思えます。



成長させてくださる神様

S・F (青年会)

「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。」

(コリントの信徒への手紙一 3章6節

／新約聖書 302 ページ)

先日、私が手伝わせていただいている恵泉幼稚園でのことを少し話したいと思います。

子ども達は日々の幼稚園の生活の中で、特に遊びの中で成長していきます。Aちゃんは、おままごとが大好きな女の子です。幼稚園に着いて、用意を済ませるとだいたいいつも一直線におままごとコーナーに向かいます。私もよくAちゃんとおままごとをして遊んでいたのですが、彼女は周りの友達と一緒に遊ぼうとはしません。おままごとコーナーにはAちゃんだけでなく他の子ども達も沢山来ますが、Aちゃんはいつも一人空想の世界にふけり、彼女の世界を楽しみます。近くに先生がいれば、彼女は先生とおしゃべりしたり、膝の上に座ってきたりしますが、周りの子達との関わりはあまり積極的とは言えません。そんな彼女がある日、いつも通り遊んでいると、Aちゃんは「仲間に入れて」と尋ねてきた女の子達を「いいよ」と受け入れ、一緒におまま

ごとを始めたのでした。話している内容を聞いてみると、あまりかみ合っておらず、Aちゃんは相変わらずAちゃんの世界に入ったままの様子でしたが、それでもやりとりをしながら、おままごとを楽しんでいる様子は少したくましくも見えました。Aちゃんにとっては大きな成長であったことは間違いなかったと私は思います。

Aちゃんはなぜ、新たな関わりへの一歩を踏み出すことができたのでしょうか。幼稚園の先生方の彼女との接し方や関わり方、彼女が過しやすい幼稚園の雰囲気と環境作り、周りの子ども達の成長、Aちゃんとの接し方への変化、Aちゃんの親御さんの努力、そして何より、Aちゃん自身の一歩踏み出す勇氣と心の変化などなど沢山の要因が今回のAちゃんの成長へ繋がったと思います。

さて、この手紙はパウロがコリントの教会に宛てて書いたものです。パウロは新たな伝道の旅へと赴くべく、教会の基礎ができたコリントの地をアポロという人物に託し旅立ちます。アポロもまた、パウロの期待通り、生まれたばかりの教会を整えていきます。パウロはキリストの福音の種を蒔き、キリスト教会の土台を据え、アポロは蒔かれた福音の種に水を蒔き、据えられた土台の上に教会を作っていました。互いの仕事、能力は違えども、それぞれの力を発揮してキリストの福音を宣べ伝えました。

しかし、パウロが去った後、コリントの教会では教会の内部でパウロ派とアポロ派に分かれての対立が起こっていました。コリントの人々はパウロとアポロそれぞれの表面上の役割の違いに価値の優劣を見出してしまったのです。

そして、私達もコリントの信徒達のように表面上の役割の違いに価値観を見出してしまっていないでしょうか？

例えば部活動で、レギュラーや試合に出る選手は評価を得やすいですが、控えの選手は試合に出ることができなければ、評価を得ることは難しいです。何かを共同で作ったり、共同でイベントを行う際、表に立つ役割を与えられた人はその功績や名前が有名になったり、周りから羨望のまなざしを向けられることもありますが、一方で、裏方の仕事はあまり日の目を見ることがなく、評価されているか不安に感じることもあるかもしれません。

しかし、どの仕事・役割もなくてはならないものではないでしょうか。

部活においても、共同で作ったり、イベントを行うことにおいても、一つの目標に向かうためにはどれ一つとしてかけることはできません。レギュラーとして試合に出る選手は、全力でプレーをする。控えの選手はレギュラーに何かあったときにすぐに試合に出られるように、また仲間を鼓舞する応援やアドバイスをすることで勝利へ向かいます。表に立ってイベントの司会・進行をする者がいれば、事務的な作業や連絡をとったりするよう仕事をする者のおかげで予定通りに行事を開催することができます。また、人にはそれぞれ得意なことと不得意なことがあります。できることとできないことがあります。自らが与えられた賜物を存分に発揮することができればなんとよるこばしいことでしょうか。

パウロとアポロもまた、同じ目標・目的を持っていたに違いありません。それは神様の御心に従うということです。その役割に優劣はなく、ただ自らが神様の分に応じて仕えた者に過ぎず、真に褒め称えられるべきは彼らをお遣わしくくださった神様以外にいません。パウロはそのことを知っていました。そのことを考えると、「しかし、成長させてくださったのは神です」という言葉は私達にとっておおきな励みになることでしょうか。パウロは種を蒔き、アポロは水を蒔く。しかし、その蒔いた種から芽が出てくるにはそれだけでは足りません。芽が出るには一定の温度と空気が必要です。それらは誰が用意してくださるのでしょうか？芽が出たあとに実を結ぶまでに必要なものを備えてくださるのは誰でしょうか？

Aちゃん自身の成長は、本人の努力はもちろん、周りのサポートが何一つ欠けることがなかったからこそありました。しかし、人や環境を用意してくださったのは神様であり、わたしたち人間では補えないような支えとなったのは紛れもない神様です。

神様に成長させていただいていると同時に、私もまた神様の働き手として自分にできる事をしたいと願います。

